

参考資料

～第1回 姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会～

1階 フロアマップ

温水プール



採暖槽・採暖室



トレーニングルーム



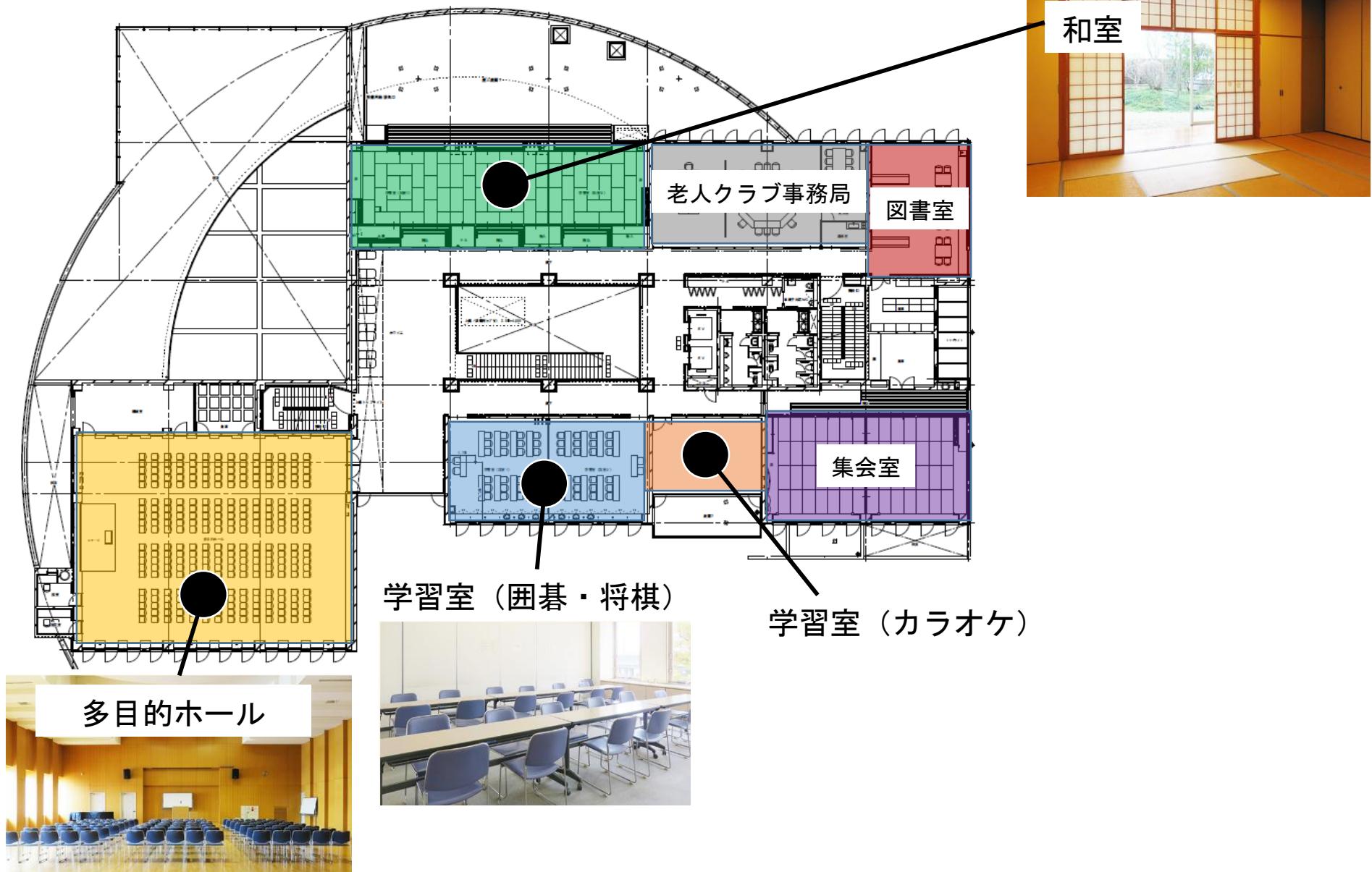
運動フロア



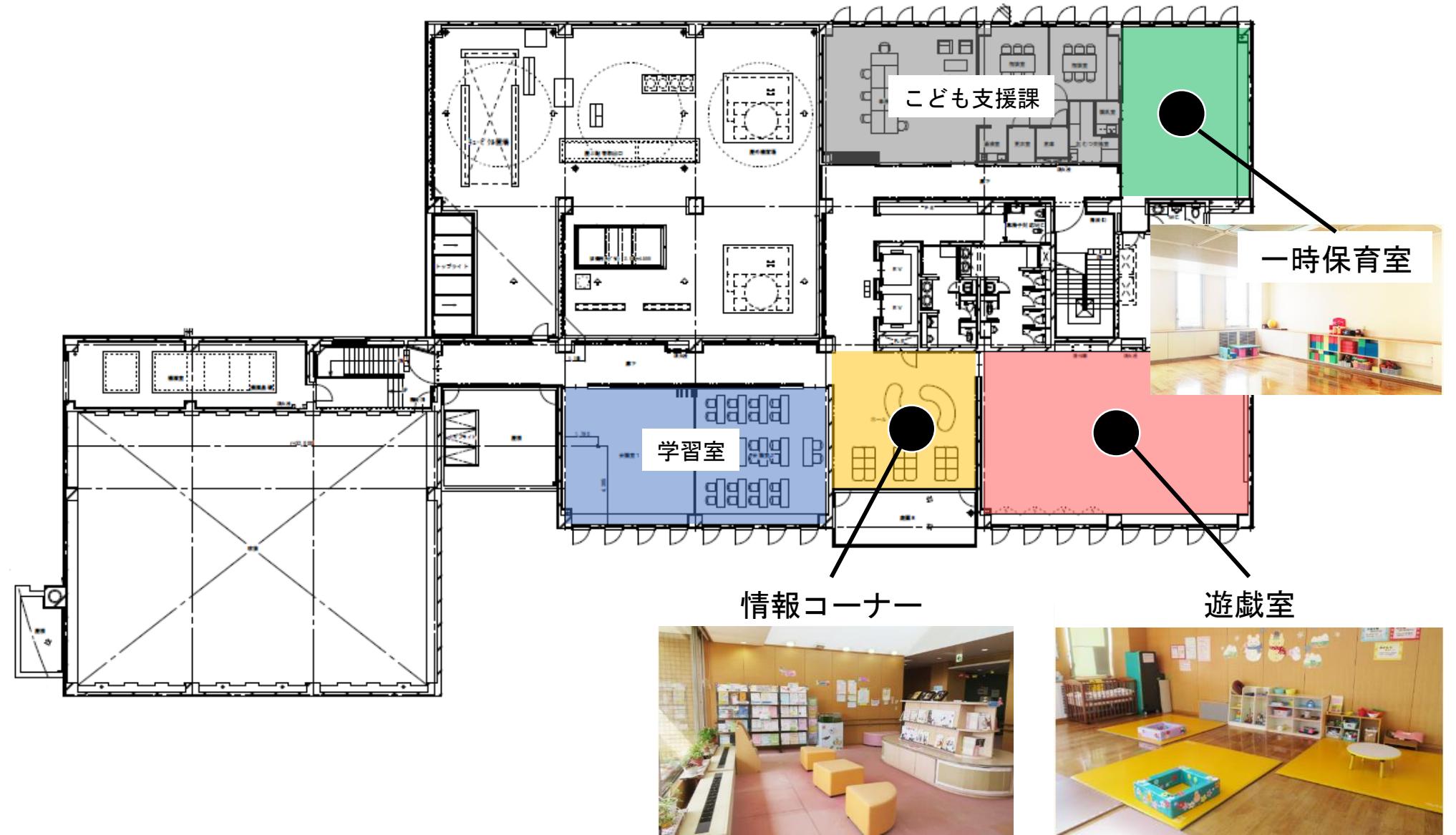
リラクゼーションルーム



2階 フロアアマップ



3階 フロアアマップ



将来推計人口(地域の未来予測より)

1.1

将来推計人口

推計結果の概要

- 姫路市の総人口は減少を続け、2030年代前半には50万人を下回り、2050年には2023年と比較して9万人減少する。

想定される変化・課題

- 総人口の減少に伴い、さまざまな分野において課題が顕在化すると想定される。
- 特に、生産年齢人口（15～64歳）の減少により、各種産業に投入される労働量の減少、市場規模の縮小が懸念される。



単位：万人

■ 15歳未満	■ 15～64歳
■ 65歳以上	■ 年齢不詳

人口増減 (2023年 → 2050年)	
総数	- 9万人 (- 17%)
65歳以上	+ 1.8万人 (+ 12.5%)
15～64歳	- 8.7万人 (- 27.5%)
15歳未満	- 2.1万人 (- 31.8%)

注
数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

出典
2020年まで「国勢調査」(総務省)。2015年、2020年の年齢別人口は、不詳欄完済による。

2023年は、令和5年9月30日現在における住民基本台帳(外国人を含む)。2025年から「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

75歳以上人口、85歳以上人口(地域の未来予測より)

7

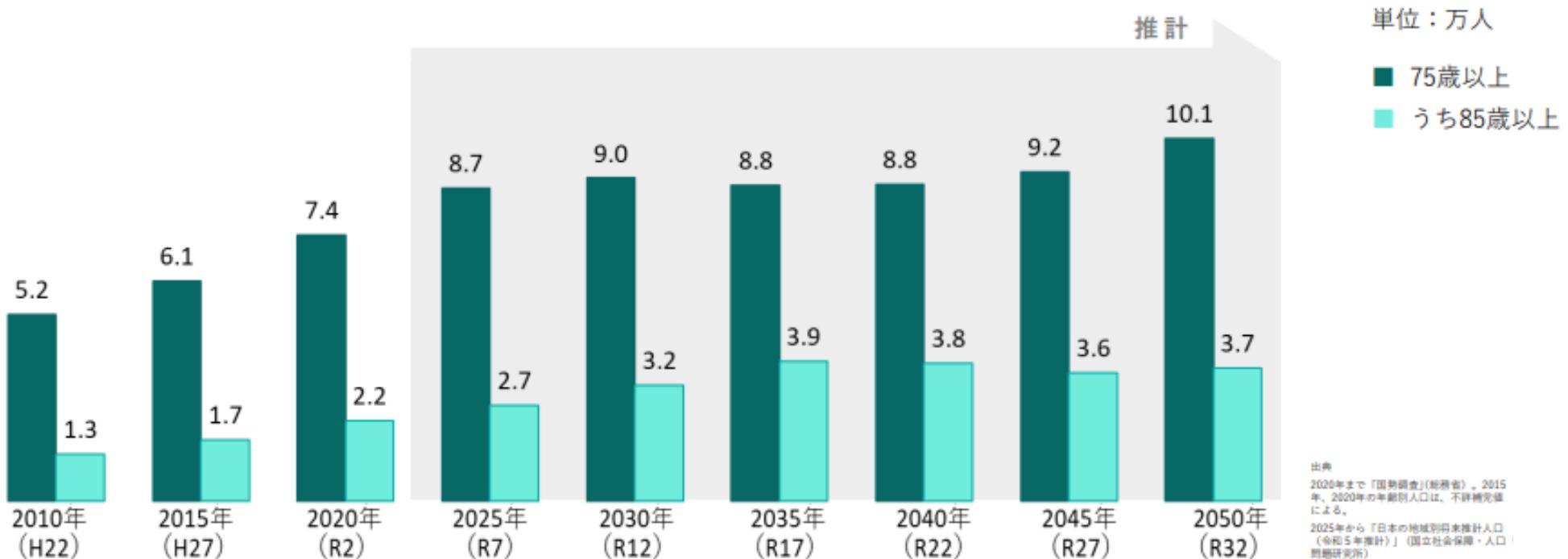
75歳以上人口、85歳以上人口

推計結果の概要

- 75歳以上人口は2030年に一度ピークを迎え、その後は横ばいとなるが、2050年にはいわゆる団塊ジュニア世代が75歳以上となり、10万人を超える2030年を上回る。

想定される変化・課題

- 高齢化率の増加に伴い、総人口に占める生産年齢人口の割合が低下することで、医療や介護など社会保障に関する給付と負担のギャップが拡大するおそれがある。



公共施設等の年度別改修・更新費用(地域の未来予測より)

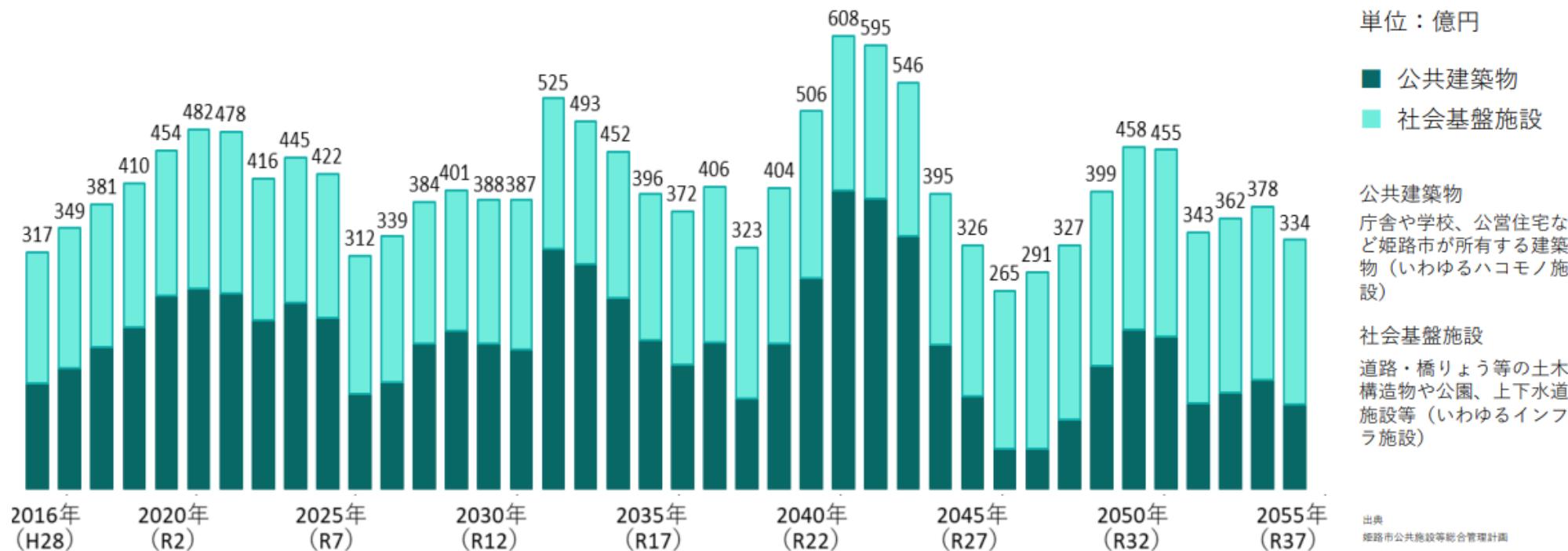
13 公共施設等の年度別改修・更新費用

推計結果の概要

- 姫路市保有の全公共施設等について、現状の規模で改修・更新等を実施した場合、毎年平均約400億円超の経費がかかる。

想定される変化・課題

- 人口減少に伴う利用需要の変化や改修・更新経費の将来推計によると、全公共施設を現状の水準のまま維持することは困難である。
- 長期的な視点を持って施設のあり方を根本的に見直し、過大な施設や不要な施設を整理することが必要である。



市営健康づくり類似施設

施設名	プール	トレーニングルーム
すこやかセンター	600円/回	600円/回
①夢前福祉センター	600円/回	600円/回
②香寺総合公園 S C	—	240円/時間
③香寺温水プール	300円/時間	—
④花北体育館	—	240円/時間
⑤安富B&G海洋センター	240円/回	—
⑥総合スポーツ会館	300円/時間	240円/時間
⑦広畠トレーニングルーム	—	360円/時間
⑧リフレ・チョーサ	600円/回	600円/回

